

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 6 月 13 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/13 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.7 m ³ /h	26.4	106.5 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.6 m ³ /h	39.1	6.41 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.3 m ³ /h	37.4	0.23 kPa g	A系： 0.12 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.12 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/13 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	25.5
2号機	循環冷却システム	停止中	31.3
3号機	循環冷却システム	運転中	21.9
4号機	循環冷却システム	運転中	29

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

[2号機]・6/10 6:25 ~ 6/14(予定) 計器の定期点検に伴い、使用済燃料プール代替冷却系を停止。停止時間は6/14までの約111時間を予定。なお、冷却系停止時の使用済燃料プール水温は22.9 であり、プール水温度上昇率評価値は 0.182 /h で停止中のプール水温上昇は約20.2 と評価されることから、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋地下	6/8 9:55 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	6/7 12:02 ~ 移送実施中
6号機	6号機 タービン建屋	仮設タンク	6/13 10:00 ~ 16:00 移送実施

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/13 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。
- ・H25/6/11 8:00 ~ 6/14(予定) 使用済セシウム吸着塔一時保管施設(第二施設)のクレーン改造工事に伴い、多核種除去設備(ALPS)のA系統を停止。
- ・H25/6/13 9:49 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちB系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

< 5 . その他 >

- ・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/6/13 10:00 ~ 10:30、11:55 ~ 12:30 遮水壁設置工事における資機材搬入に伴い1~4号機取水口付近に設置したシルトフェンスの閉鎖を実施。
- ・H25/6/14 ~ 6/20 6号機補機海水系について、6号機タービン補機冷却系熱交換器(C)の本格点検を行うため、全台停止予定。
その間、使用済燃料プール冷却系が使用できなくなることから、残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転(炉心冷却)と非常時熱負荷運転(使用済燃料プール冷却)を交互に切り替えることで、使用済燃料プールを冷却予定。なお、原子炉停止時冷却運転(炉心冷却)および非常時熱負荷運転(使用済燃料プール冷却)については、以下の温度を目安として交互に切り替えることで、保安規定で定める運転上の制限値を超えないよう管理する。
 - < 原子炉停止時冷却運転(炉心冷却)目安値 >
原子炉水温度: 約 45 (保安規定に定める運転上の制限値: 100)
6/13 16:00 時点の原子炉水温度は 27.9 で、冷却停止時における原子炉水の温度上昇評価値は 0.6 /h。
 - < 非常時熱負荷運転(使用済燃料プール冷却)目安値 >
使用済燃料プール水温度: 約 30 (保安規定に定める運転上の制限値: 65)
6/13 16:00 時点の使用済燃料プール水温度は 21.3 で、冷却停止時における使用済燃料プール水の温度上昇評価値は 0.3 /h。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 地下貯水槽に貯水している水移送実績 >

- 6/11 ~ 地下貯水槽 No. 4 (5・6号機滞留水の貯蔵) から6号機タービン建屋地下を經由して、Fエアータンクへの移送を7月上旬まで実施*。なお、地下貯水槽 No. 4 から6号機タービン建屋地下への水の移送については、仮設ラインを使用し、日中時間帯に実施する。
* 6号機タービン建屋地下からFエアータンク(仮設タンク)への移送については、既設の移送ラインを使用。

< 拡散防止対策 >

- 6/13 地下貯水槽 No. 1 ~ 3 の漏えい検知孔内に漏えいした水および地下貯水槽 No. 2 のドレン孔に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

< サンプルング実績 >

- 6/12 地下貯水槽 No. 1 ~ 7 のドレン孔水(14 箇所)、地下貯水槽 No. 1 ~ 4, 6 の漏えい検知孔水(10 箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22 箇所)についてサンプルングを実施。そのうち、地下貯水槽 No. 3 の漏えい検知孔水(南西側)の全ベータ値が、前回(6/11)と比較して約2倍となっているが、この値は過去の測定結果の範囲内であり、その外側のドレン孔(南西側)での濃度上昇はない。その他については前回(6/11)実施したサンプルングの分析結果と比較して大きな変動はない。
また、6/5 に採取した、地下貯水槽 No. 1 ~ 4, 6 のドレン孔水及び漏えい検知孔水についてトリチウムの分析を実施した結果(1週間に1回分析を実施)、前回の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。